

能登の漁業伝統～鯨伝説碑～

石川県・能登町



庄次兵衛鯨伝説

能登町(旧能都町)は縄文時代から鯨との関わりが深く、町内各地で鯨伝説や鯨にちなんだ地名が残っている。それに関連する物語等については下記のとおりである。

- ①「鯨獲絵馬」:1863年、加賀藩13代藩主・前田斎泰が海防対策のための能登巡見の折、藤波の浜まで鯨獲りを見学した情景を描いた絵馬で、現在、神目神社に所蔵されている。当時は外国船の出没より異国船打払令の奨励を通達したことから、加賀藩も藩内各地に台場(砲台)等を設置しており、藩主による海防巡視となったようである。
- ②「庄次兵衛鯨伝説」:1664年頃、庄次兵衛という男が、死後、鯨になってお礼をしたと言う伝説で、その当時、不景気な時にそういったことがあって、集落中が潤った伝説でもある。
- ③「すもう・鯨波」:江戸時代末期、鯨の親子を助けた夫婦が、褒美に子を授かり、その名を鯨波とした伝説である。近郷近在に敵なしという相撲の強い好青年が能都町に誕生し、「角力石碑」に「鯨波」の名が刻まれている。
- ④「波並鯨島」:昔、波並の村はずれに乗り上げた鯨にちなんでつけられた地名である。鯨の捕獲については、ドウフネを使用し、沖から岸のほうへ追い込むような漁業スタイル「追い込み漁」を行っていた。

TOPICS

・酒樽返し 4月2日 開催(鯨獲絵馬所蔵の神目神社の祭:二統のブリ網の若者たちが、田の中、海の中で、祭りの前に神前に供えられた酒樽を奪い合う祭り。)

お問い合わせ先

能登町水産課

- TEL/0768-72-2504(直通)
- URL/http://town.noto.ishikawa.jp

【交通】

- バス/穴水駅から50分
- 車/(福井方面から)内灘I.C能登有料道路/珠洲道路
經由で1時間30分
(富山方面から)白尾I.Cから能登有料道路/珠洲
道路經由で1時間20分

